

名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会第30回幹事会議事録

- ・日時：平成21年12月16日（水）14:00～16:30
- ・場所：幡豆町いきいきセンターさわやかルーム2
- ・出席：（沿線市町）西尾市企画課 榊原課長、谷崎主事
蒲郡市企画広報課 市川次長、川畑主査
吉良町企画課 近藤課長、伴野課長補佐
幡豆町企画課 深谷課長、三浦係長
（愛知県）地域振興部交通対策課 松井主幹、矢口主査
（名鉄）企画管理部 牧野課長、近藤サブチーフ
（オブザーバー）中部運輸局鉄道部監理課 後藤専門官

[発言要旨]

（名鉄）

前回幹事会において対応案の策定についての指示があったことから、検討を行った。千葉県のいすみ鉄道などの先行例もある手法であるが、鉄道基盤を道路と同じ社会インフラとして位置付け、その基盤設備を維持管理するための費用に対して補助を行う、という案を提示させていただきたい。なお、具体的な補助対象費目などは、今後、沿線市町の理解を得ながら調整していきたいと考えている。

（蒲郡市）

先の12月定例会で財政支援を考えている旨の答弁をした。しかしながら、これまで同様、利用者負担を前提としたうえでの財政支援を考えている。当市では名鉄利用者は一部の地域に限定され、全額公費での負担は難しい。

前回の総会で、現状の名鉄での存続は確認されたが、沿線市町の支援策については、他の事例などを基に検討を行っていききたい。

（吉良町）

利用者負担は副町長は賛成しているが、担当者としてはこれまで以上の逸走が生じる可能性が高いことから賛成できない。

（幡豆町）

利用者負担増はやむなしと考えているが、逸走も心配している。

(西尾市)

利用者負担増は逸走を考えると慎重に行うべき。

当市では、現行のバスの補助額が一つの目安になると考えている。また、補助を考えるうえで、県の考え方はどうか。

(愛知県)

利用者負担は、運賃としてではなく、「ミューチケット」などと同様の料金としての徴収は考えられないか。

第6回総会時に構成員として加わる際に申し上げたように、県は、鉄道に関する知識・ノウハウの提供、調整役として参画しているという立場である。

国の見解及び運賃引き上げ時のシステム改修費が数億円規模となることを踏まえると利用者負担の話は、次回の名鉄の料金改定時に考えることになる。

(名鉄)

当社では運賃改定は10年以上行っていないが、現在のデフレ下にある社会情勢を鑑みた場合、運賃値上げには、ご利用者の理解を得ることができるかという課題があると考える。

(西尾市)

協議会の設立の趣旨に沿って、利用者数に対する補助を考えてはどうか。これまで国鉄のバス化を行う際は輸送密度4,000とされているが、この数字と現在の輸送密度のギャップを埋めるという視点での補助はどうか？

(名鉄)

この区間の根本的な問題は、大量輸送機関という鉄道特性が発揮できていないことであり、そのことを、国鉄再建時にバス転換が適当とされた基準である輸送密度4,000人にも満たないという形でご説明申し上げたことは事実である。しかしながら、輸送密度が4,000人を超せば収支が償うというものでもないことから、当社としてこの提案をお受けすることは難しいと考える。

(西尾市)

本日の議論を踏まえて、施設の維持・管理の補助と輸送密度とのギャップを埋める補助について各々で詰めてきていただきたい。

次回の総会の日程調整を年内に行いたい。

次回は平成22年1月12日(火)の14時から、蒲郡市役所で開催する。

(以上)